

『ニホニウム』正誤表

(小浦寛之 著)

2022 年 4 月 20 日更新

初版 1 刷 (2021 年 6 月 10 日発行) の訂正

訂正箇所	誤	正
p.27 2 行目	どの原子核が作られた か がわかる	どの原子核が作られた か がわかる
p.28 23 – 24 行目	核分裂は原子核 の バラバラになってしまう過程なので	核分裂は原子核 を バラバラになってしまう過程なので
p.29 10 行目	ここまで述べた超重核合成 に ポイントについて…	ここまで述べた超重核合成 の ポイントについて…
p.54 17 – 18 行目	電子はスピン 下 向き $\hbar/2$ と下向き $-\hbar/2$ の…	電子はスピン 上 向き $\hbar/2$ と下向き $-\hbar/2$ の…
p.58 図 2.2 キャプション 3 行目	多 多電子系原子	多電子系原子
p.64 式 (2.10)	κ	$\kappa =$
p.73 7 – 8 行目	(どれも 4 価が 際 安定原子価)	(どれも 4 価が 最 安定原子価)
p.81 –1 行目	半経験的原子質公式	半経験的原子質 量 公式
p.89 11 行目	^{44}Ti は不安定で ^{44}Ti からが安定となる	^{44}Ti は不安定で ^{46}Ti からが安定となる
p.90 10 行目	^{48}Ti に みである	^{48}Ti の みである
p.94 11 行目	$l \cdot s$ 力原子核の表面部分で	$l \cdot s$ 力 は 原子核の表面部分で
p.103 13 行目	前 説 では調和振動子ポテンシャルで…	前 節 では調和振動子ポテンシャルで…
p.103 –2 – –1 行目	中性子数が外れた原子核は変形している形状が基底状態 は である.	中性子数が外れた原子核は変形している形状が基底状態である
p.114 13 行目	これは 2 つの核子 間 に働く力として	これは 2 つの核子 間 に働く力として
p.129 図 4.5	deformed she	deformed see
p.131 図 4.6 キャプション 1 行目	α 崩壊 崩壊 Q 値の実験値	α 崩壊 Q 値の実験値
p.133 5 行目	大きくなるが主因である.	大きくなる の が主因である.
p.135 式 (5.6) の左辺	$T_{1/2}$	$\frac{1}{T_{1/2}}$
p.148 19 – 20 行目	この表記で で 書くと	この表記で書くと
p.150 –7 行目	パリティ を 破れを引き起こす	パリティ の 破れを引き起こす
p.153 –11 行目	詳細な $M_{\omega}(E)$ の様子を調べる方法もある	詳細な $M_{\Omega}(E)$ の様子を調べる方法もある
p.174 最下部の式	00	100
p.177 –11 行目	T_2	T_1

訂正箇所	誤	正
p.183 図 6.4 キャプションおよび周辺の本文	上図（図 2(a)），下図（図 2(b)）	左図，右図
p.186 -5 - -4 行目	FF に至る経過時間は 10^{-20} 程度あるいは…	FF に至る経過時間は 10^{-20} 秒程度あるいは…
p.193 図 6.8 キャプション 1 行目	…の断面積と励起関数塗った印では	…の断面積と励起関数. 塗った印では
p.196 9 行目	…，は ^{294}Ts で 51 ミリ秒であった	…， ^{294}Ts で 51 ミリ秒であった
p.196 -3 行目	ビームが大強度になると，それ耐えうる標的作成も重要となる	ビームが大強度になると，それに耐えうる標的作成も重要となる
p.197 -5 行目	10 個以上以降する反応	10 個以上移行する反応
p.198 5 行目	核子以降	核子移行
p.208 11 - 12 行目	本来場の量子論で扱うべもの	本来場の量子論で扱うべきもの
p.212 9 - 10 行目	自発核分裂に必要な基底状態をうまく探せず	自発核分裂に必要な基底状態をうまく探せず
p.218 7 行目	ヘリウムから炭素，炭素，…	ヘリウムから炭素，酸素，…
p.223 最下行	重イオン合成合成の物理について	重イオン合成の物理について
p.234 13 - 14 行目	半経験的質公式	半経験的質量公式